この表の読み方

受注・製造進捗管理システムの導入　／　株式会社サンプル企業　／　基準日 2026-11-13（金）の週次のあと　／　出どころ: プロジェクト計画書 v1.0（2026-10-27）

何のための表か	プロジェクト計画書で決めた「課題」「リスク」「測るのは 3 つだけ」を、毎週金曜 16:05 の週次（20 分）で見るための表。週次では、期限を過ぎた課題と、測る 3 つだけを読み上げる。
シート	① 課題管理表 — 解決しないと先に進めないこと。担当と期限が必ず付く ② リスク管理表 — まだ起きていないが、起きると困ること。起きたら課題になる ③ 週次の記録 — 生産管理の作業時間（予定と実績）、図面の紐付けの件数、受け取った成果物
赤	担当か期限が空の課題／期限を過ぎて「完了」でない課題／生産管理の実績が 2 週続けて予定の 70% 未満の週。赤は「誰かが今週動く」という意味。色だけでなく、上の集計の数と「状態」「残日数」の列にも出る
琥珀	期限まで 7 日以内の課題／実績が予定の 70% 未満の週（1 週だけ）／リスクの点数が 4
緑	完了した課題（「閉じた日」と「対応の記録」に、何をして閉じたかを書く）
残日数・集計	式で出している（=期限−TODAY()、COUNTIF など）。開いた日によって変わる。値を手で書き換えない
予定と実績	週次の記録の「予定」は計画書 3 章の割り当て、「実績」は生産管理本人が毎週金曜に記入する。実績が空の週は、まだ来ていない週（色ではなく空欄で分かる）
書き方の決まり	課題を閉じるときは、何をして閉じたかを書く（「対応済」だけにしない）／1 人が同時に持てる課題は 3 件まで／要件・金額・日程を変えたら、分類「変更」の行として残す
出どころ	要件定義書 v1.0（論点 #4・#7・#8）、ベンダー選定報告書 v1.0（論点 #2）、プロジェクト計画書 v1.0（課題 7 件・リスク 7 件）。その後に起きたものは「起票日」「起票者」の列

色見本：赤
色見本：琥珀
色見本：緑

この表は社内限り。客先の名前・図面の中身は書かない。

課題管理表

基準日 2026-11-13（金）の週次のあと。担当か期限が空の行と、期限を過ぎて閉じていない行は自動で赤くなる（残日数と集計は TODAY() で毎日変わる）

全件	未着手	着手中	完了	期限超過	担当か期限が空
11	3	5	3	0	1

#	分類	課題	起票日	起票者	担当	期限	状態	残日数	対応の記録	閉じた日
1	体制	生産管理の通常業務を誰が肩代わりするか（2 月に週 9 時間。要件定義書の論点 #7 から持ち越し）	2026/10/27	AI活用推進担当	製造部長	2026/11/20	着手中	3	11/10 営業課長と相談し、営業が受注入力の一部を引き取る案。11/13 週次で生産管理の実績が 2 週続けて 70% 未満（週次の記録）のため、期限を 11/27 から 11/20 に前倒しした	
2	移行	図面 426 件の紐付けを誰がやるか（要件定義書の論点 #4）	2026/10/27	AI活用推進担当	製造部長	2026/11/13	完了		11/12 決定。生産管理が 1/5 から 1 日 40 件ずつ、11 営業日で行う。外部に頼む見積り（¥84,000）は控えに取った	2026/11/12
3	変更	Could の 2 機能（FR-505・FR-206）を外すか（選定報告書の論点 #2）	2026/10/27	AI活用推進担当	代表	2026/11/06	完了		11/06 代表が決定。FR-206（機械の負荷）を次期に回す（−¥420,000）。FR-505（売上 CSV）は 3 月の締めに使うので残す。B 社に変更管理書を出した	2026/11/06
4	試験	受入試験の手順書を作る（AT-01〜11 と性能の受入）	2026/10/27	AI活用推進担当	AI活用推進担当	2026/12/18	着手中	31	11/13 時点で 4/11 件（AT-01〜04）。SC-06 の性能の測り方を B 社と相談中	
5	会計	3 月分の売上を新旧どちらで締めるか（3 月は決算月）	2026/10/27	AI活用推進担当	経理	2026/12/11	未着手	24		
6	設計	納品書を客先ごとの様式で出すか（要件定義書の論点 #8）	2026/10/27	AI活用推進担当	営業課長	2026/12/25	着手中	38	11/11 客先ごとの様式が 4 種類あると分かった。うち 2 社は当社の様式でよいと回答	
7	教育	現場 22 名への説明会の日程（10 分 × 2 回・稼働の 1 週前）	2026/10/27	AI活用推進担当	製造部長	2027/01/29	未着手	73		
8	環境	工程 4 の電波を、全部の機械が動く時間帯に測り直す（リスク R6）	2026/10/27	AI活用推進担当	製造部長	2026/11/13	完了		11/12 14 時（全台稼働）に測定。−55dBm で足りる。リスク R6 を「解消」にした	2026/11/12
9	設計	SC-06 の良品数の既定値（指示数量）を、B 社の試作で確かめる	2026/11/04	製造部長	AI活用推進担当	2026/11/20	着手中	3	11/11 試作 1 回目で、完了→OK の 2 タップで終わることを確かめた。現場 3 名の確認は 11/18	
10	移行	品目マスタに材質の書いていない図番が 184 件ある	2026/11/11	生産管理	生産管理	2026/12/25	着手中	38	11/13 時点で 96 件を図面から特定。残り 88 件は客先への問い合わせが要る（リスク R8）	
11	設計	取引先マスタの住所の書き方が揃っていない（B 社からの指摘）	2026/11/12	AI活用推進担当			未着手			

担当か期限が空の行は赤くなる。埋めるまで、この表の上では課題として扱われない。

期限を過ぎて「完了」でない行も赤くなる。期限まで 7 日以内は琥珀。完了は緑。

1 人が同時に持てる課題は 3 件まで。超えたら優先順位を代表が決める。

リスク管理表

リスクは起きたら課題になる。起きる前に手当てを決めておく。点数 = 起きやすさ × 影響（各 1〜3）。

#	起きると困ること	起きやすさ	影響	点数	起きる前にやること	起きたらどうするか	見る人	状態	出どころ・最新の様子
R1	生産管理が 1〜2 月に時間を取れない	3	3	9	通常業務の肩代わりを決める（課題 #1・11/20）	稼働を 4 月に延ばす（2/5 に判断）	代表	対応中	計画書 R1。11/13 週次で 2 週続けて実績 70% 未満＝兆しが出ている
R2	図面の紐付けが 1 月中に終わらない	2	2	4	1 月は毎週、件数を測る	外部に頼む（¥84,000・見積済み）	製造部長	監視中	計画書 R2。分担は 11/12 に決まった（課題 #2）
R3	B 社の遂行責任者が交代する	1	3	3	契約に 2 週間の引き継ぎの条項	引き継ぎの期間ぶん日程を延ばす	AI活用推進担当	監視中	計画書 R3
R4	2 月の受注が平年より多い	1	2	2	1 月末の受注残を見る	並行運転を 1 週に縮める	生産管理	監視中	計画書 R4
R5	設計の結果、製造の金額が見積りより上がる	1	2	2	Could の機能の扱いを先に決める	範囲を削るか、代表に予算を諮る	AI活用推進担当	監視中	計画書 R5。11/6 に FR-206 を外した（課題 #3）ので起きやすさを 2→1
R6	工程 4 の電波が、全部の機械が動く時間帯に落ちる	1	2	2	全台が動く時間帯に測り直す	有線＋据置端末（+¥180,000）	製造部長	解消	計画書 R6。11/12 の測り直しで −55dBm（課題 #8）
R7	マシニング 2 号機（14 年目）が故障する	1	2	2	—（本件の範囲外）	本件を一時止め、設備を優先する	製造部長	監視中	計画書 R7
R8	品目マスタの材質不明 88 件が、客先から回答されない	2	2	4	12 月中に問い合わせを出し切る	材質を「要確認」で登録し、稼働後に埋める	生産管理	対応中	11/13 の週次で追加（課題 #10）

点数 6 以上は赤、4 は琥珀。手当てを打ったら「起きやすさ」を下げ、理由を右の列に書く。

週次の記録 — 測るのは 3 つだけ

「進捗率 65%」は書かない。数えられるものだけを測る（時間・件数・受け取った成果物）。予定はプロジェクト計画書 3 章の割り当て。実績が空の週は、まだ来ていない週。

週	週末の日付	生産管理 予定 h	生産管理 実績 h	達成率	図面の紐付け 予定の累計	図面の紐付け 実績の累計	図面の 進み	受け取った成果物	気づいたこと
1	2026/10/30	1	1.0	100%				—	着手。週次の枠を毎週金曜 16:05 に固定した
2	2026/11/06	2	0.5	25%				B 社の作業計画書（11/06）	月初の出荷が集中し、生産管理は 0.5 h
3	2026/11/13	2	1.0	50%				SC-04・SC-06 の画面の試作 1 回目（11/11）	客先の監査（11/10〜11）に生産管理が付いた。2 週続けて 70% 未満 → 課題 #1 の期限を 11/20 に前倒し
4	2026/11/20	1						（予定）M1 設計書	
5	2026/11/27	2							
6	2026/12/04	2							
7	2026/12/11	2							
8	2026/12/18	2							
9	2026/12/25	2							週 10（12/28〜1/1）は年末年始のため週次を開かない
11	2027/01/08	4			110				図面の紐付けを 1/5 に始める（1 日 40 件）
12	2027/01/15	5			220				この日に 40% 未満なら外部に頼む（計画書 5 章）
13	2027/01/22	5			330			（予定）M2 試験の成績書	
14	2027/01/29	4			426			（予定）M3 図面の紐付けの完了	
15	2027/02/05	9			426			（予定）M4 移行リハーサル	
16	2027/02/12	9			426			（予定）M5 受入試験の合格	
17	2027/02/19	4			426				
18	2027/02/26	4			426			（予定）M6 並行運転の完了	3/1（月）稼働（M7）
累計		60	2.5	50%				累計の達成率は、実績を書いた週だけで割る	

2 週続けて予定の 70% を下回ったら、行全体が赤くなる。そのときは日程を組み直す（計画書 5 章）。

3 週目までで、予定 5 h に対し実績 2.5 h（50%）。2・3 週目が続けて 70% 未満のため、規則が働いている。

→ 原因は月初の出荷と客先の監査。リスク R1 の兆しとして、課題 #1（肩代わり）の期限を 11/27 から 11/20 に前倒しした。